

# 通信

NO. 7  
平成25年8月号

## ビジネス総研株式会社

福岡市博多区博多駅前4丁目  
33番11-702号  
☎092-409-4177

## ピースとハイライト



8月になると、戦争の愚かさを報じる番組や記事が多くなる。

そんな中で、5年ぶりに復活したサザンオールスターズが、CD「ピースとハイライト」を発表した。

歌詞に次の一節がある。

♪歴史を照らし合わせて  
助け合えたらいいじゃない  
硬い拳を振り上げて  
心開かない  
都合のいい<sup>かいしゃく</sup>大義名分  
争いを仕掛けて  
裸の王様が牛耳る世は…<sup>Insane</sup>狂気

国際紛争を解決するには、武力ではなく、違いを認め合い、話し合っ解決を図る本質についていると思う。

現状への強力なメッセージだ。

スタ  
コラ

弊社スタッフのコラム。ホームページに定期的にアップしています。

## 目標管理について

神戸 暁

ISO9001 の特徴的な活動のひとつに目標管理がある。

目標管理は、1950年代、米国のピーター・ドラッカーによって提唱された経営管理手法で、高度経済成長期以降の日本企業でも多く採用された。

ISO9001 では『組織内のしかるべき部門及び階層で目標が設定されていること。目標はその達成度が判定可能で、方針との整合がとれていること』と規定している。

目標策定の原則はおおよそ次のようなものである。

- ①達成度が判定可能であること  
頑張ります、努力します、では駄目で何時までにどれだけと数値目標が必要。
- ②企業（組織）の方針に整合していること  
会社の経営理念、経営計画、年度目標などと矛盾しないこと
- ③データ及び情報分析に基づいていること  
目標の根拠は、確たる現状分析に基づくものであること
- ④現状を超えるものであること  
すでに達成されているようなものは目標にならない
- ⑤企業（組織）にとって重大事であること  
痛くも痒くもないような瑣末なことでは意味がない

目標管理は、担当者自らが業務目標を設定し、申告し、その進捗や実行を自ら管理する手法で、社員の自主性を重んじ、モ

チベーションを喚起することを目的としたものである。

しかし、それがノルマ管理や人事評価の手段としての色彩が強くなると本来の意義は失われる。

社員一人一人が適切な目標を掲げ、それに対して適切な支援、指導、評価がなされるならば、会社の前途は洋々たるものであるだろう。

お盆を前に仏壇のほこりを払いながらふと思った。

年の半ばを過ぎて我が年初の目標は達成されつつあるのか、人生の目標はどうであったのか、親が期待したような人間になっているのか、そもそも我が人生に適切な目標などあったのか。先祖の位牌を前にすると、いろいろと反省することばかりである。



## ノウゼンカズラ



暑い盛りに生垣にオレンジの鮮やかな花を見かけます。

ノウゼンカズラはつる性の落葉樹で、途中から気根を出して、樹木や壁などの他物に付着して伸びていきます。

<ノウゼンカズラの花言葉>

栄光・名声・名誉・光栄  
華のある人生、豊富な愛情

弊社への質問や要望、身近な情報や感想など、お気軽にお寄せください。



映画大好きの山ちゃんが、毎回、自分の言葉で執筆します。

## 96時間／リベンジ



監督：オリビエ・メガトン  
 出演：リーアム・ニーソン  
 マギー・グレイス  
 ファムケ・ヤンセン  
 リーランド・オーサー  
 ジョン・グライス

2012年 仏(20世紀フォックス映画配給)  
 全米初登場1位、9週連続トップ  
 プテン入りを果たすなど世界中  
 で大ヒットを記録し、日本でも幅  
 広い観客層を熱狂させた200  
 8年「96時間」。

普段は、穏やかな男がパリで誘  
 拐された最愛の娘を救うと誓っ  
 た瞬間、何の躊躇もなく冷酷非情  
 なタフガイに豹変し、驚愕の”特  
 殊技能“によって悪党どもをなぎ  
 倒していく。

そんな元CIA秘密工作員の  
 主人公ブライアン・ミルズの魅  
 力的なキャラクターとノンストップ  
 のストーリー展開が、常識破り  
 の衝撃と興奮を呼び起こしたの  
 だ。

そして、ついに続編を切望する  
 ファンの声に応え、リュック・ベ  
 ッソン制作&脚本、前作でアクシ

ョン演技に開眼した名優リーア  
 ム・ニーソン主演の「96時間／  
 リベンジ」が完成した。

ぜひ、前作の「96時間」を鑑  
 賞してから、続編のこの作品を観  
 てもらいたい



### くまさんの コンサル日誌



似顔絵作家の小西み  
 どりさんに描いてい  
 いただきました。

## 叱られると 「やる気を失う」

～第2回「職場のコミュニケーションに関する意識調査」結果～

公益財団法人日本生産性本部は、  
 同法人が2012年6月から実施  
 したセミナー受講者のうち、管理  
 職層と一般社員層を対象にアンケ  
 ートを実施した結果を発表した。

#### 【発表の概要】

1. 課長・一般社員とも業務上の  
 コミュニケーションは取れて  
 いると感じている  
 (1)課長の82%、一般社員の7  
 3.1%が「業務上のコミュニ  
 ケーションは取れている」と感  
 じている。  
 (2)部下の能力発揮と上司のサポ  
 ートにチグハグ感がある  
 ①有益な情報の共有について、  
 課長の57.7%が「共有され  
 ている」としたのに対し、一  
 般社員は45.1%にとどまっ  
 た。  
 ②叱ることが「育成につながる  
 と思う」課長は89.0%いる

一方、叱られると「やる気を  
 うしなう」一般社員は56.  
 8%にのぼった。

③部下を「褒めている」課長が  
 80.3%いるのに対し、「上司  
 は褒める方だ」と回答した一  
 般社員は51.4%にとどまっ  
 た。

④職場で「率先して仕事に取り  
 組んでいる方だと思っている」  
 一般社員が78.3%いる  
 一方で、部下、または後輩の  
 仕事ぶりに「満足している」  
 課長は37%にとどまった。

⑤育成を「面倒だとは感じない」  
 課長が73.3%いる一方で、  
 育成に「自信がある」課長は  
 41.7%にとどまった。

(3)一般社員が、組織への貢献感  
 や「いきいき」を感じられない  
 傾向にある

①自分自身が組織にとって「重  
 要な存在と思う」課長が73%  
 だったのに対し、一般社員は  
 49%にとどまった。

②一般社員の62.5%が「疲  
 れ気味」と感じている一方、部  
 下、または後輩を「疲れ気味」  
 と感じているのは49.7%に  
 とどまった。



## 編集後記

お盆のお休みが終わったが、ま  
 だまだ猛暑が続いている。

“さあ、仕事だ”とは思うが、  
 なかなか力はいらない。

まあ、そんな時は、ゆっくりや  
 ったほうがいいだろうと思ってい  
 る。

Relationship & Partnership  
**B**ビジネス総研  
**ビジネス総研株式会社**  
 福岡市博多区博多駅前4-33-11-702  
 ☎092-4094177 FAX092-4094170  
 Eメール [kuma@b-souken.com](mailto:kuma@b-souken.com)  
 URL <http://b-souken.com>